

事

高校生等の林業就業体験等

例

少人数体制できめ細やかな指導 実体験の場を提供し、就業意欲を高める 愛知県指導林家連絡協議会「愛知県」



慎重に。培養が完了したシイタケ菌床の除袋作業中

指導林家による
長年にわたる滞在型研修

愛知県では、高度な知識、技術
および実践力と熱意を持ち、率先
して近代的林業経営に取り組み、

地域の林業振興に貢献している林業経営者を「愛知県指導林家」（以下、指導林家）として昭和56年以降、知事が認定しています。その指導林家で構成される愛知県指導林家連絡協議会（以下、協議会）は、昭和56年に、会員の資質の向上と林業後継者の育成を図ることを目的に設立されました。現在は指導林家24名で構成されています（令和6年4月1日時点）。協議会では、設立当初から活動目的である林業後継者育成のため、高校生を対象とした林業体験学習を実施しています。

を利用して、生徒が指導林家のもとに滞在して行う研修を実施してきました。その内容は、造林・保育、除・間伐や伐木・造材、製材、きのこ栽培などと幅広く、それぞれの指導林家の専門において、それぞれの生徒の学習目的に合わせて内容を体験できるようになっています。1回の体験で受け入れる生徒数は原則3名以内としており、少数数のため、きめ細やかな指導で、生徒1人1人がしっかりと体験できるようにしています。

宿泊研修を一部再開し、対象生徒を拡大

コロナ禍では、宿泊での受け入れは中止し日帰りのみの実施でしたが、今年度から一部の指導林家で宿泊研修を再開しました。また、冬休みの体験学習では、林業関係

高校以外の県立高校（普通科・工業科など）も新たに対象とし、参加者を募集しました。

その結果、夏期には3名の指導林家のもとで林業関係高校2～3年生6名と、冬期は4名の指導林家のもとで林業関係高校1～2年生6名、工科高校2年生1名の生徒を受け入れました。

林業関係高校からの参加は、将

来林業や木材加工業の職に就くことを視野に入れている生徒が多く、繰り返し体験に参加してくれるケースが多くなっています。

昨年に引き続き枝打ち体験に参加した生徒は、年2回の体験学習で保育管理をしているスギが通直に育っているのを見て、1年間で木の成長に驚いていました。



約12年生スギの枝打ち体験。生徒は若木の成長ぶりに驚いていた

工科高校生徒の参加も

今回参加してくれた工科高校の生徒は、普段の学校生活で林業に触れる機会がなかったことから、体験が自分の人生経験としてプラスとなると考え、参加を希望したとのことでした。

また、機械科で学んでいることから機械に興味があり、チェーンソーに強い憧れがあるので、チェーンソーを使って作業してみたいという思いがありました。今回の体験場所である東三河の山間部から離れた尾張地区からの参加のた



工科高校生徒のグラブ操作体験。失敗の繰り返しだったが、最後には丸太をつかむことができた

め、宿泊を伴う学習での受け入れとなりました。生徒1人での参加でしたが、ちょうどクリスマスの日と重なり、夜はイターンで林業経営を行う指導林家のもとに集まった地元の方々と触れ合う機会も得られました。

1泊2日の体験を通して、山間部で暮らす個性豊かな方々と交流し、山間部での生活を垣間見る機会となったことと思います。

時間をかけて丁寧に指導 チェーンソー伐倒体験

チェーンソーを用いた伐倒や造



初めての伐倒体験。1つ1つの動作をゆっくり丁寧に進めていく

材作業、枝打ちなどについては、林業関係高校の9名と工科高校の1名の生徒が体験しました。林業関係高校の教育課程では学校林等でチェーンソーを使用する機会もあります。チェーンソーを体験することなく卒業となってしまうケースもあり、指導林家の体験学習が初めてのチェーンソー体験となる生徒もいます。

体験では、ヘルメットや防護着の着用等安全面には十分配慮しつつ、少人数の利点を活かし、道具の扱い方をゆっくり丁寧に指導しているため、初めての生徒でも無理なく実施することが可能です。またチェーンソーを扱ったことがある生徒も学校の実習ではチェーンソーで木を伐倒することはな

いため、林業に興味のある生徒たちのさら

に学びたい気持ちに配慮することのできる貴重な体験の場となっています。

工科高校の生徒も、もちろん初めてのチェーンソー体験となりましたが、指導林家からマンツーマンでゆっくり丁寧に指導を受け、2日目には2本の木を伐倒しました。

他にも薪づくりやグラップルの操作体験など2日間で様々な体験をしてもらいました。体験後のアンケートでは、林業関係

の会社への就業を希望するとの回答があり、林業を魅力ある仕事として捉えるきっかけとなったのではないかと思います。



適切な受け口・追い口をつくるため、チェーンソーの刃の上に水準器を置き水平の具合を確認



チルホールを引く大変さも体験

製材、きのこ生産などの体験も

夏期の体験では菌床シイタケの



送材車付帯のご盤で丸太から挽いた板を、必要な幅に切断する作業の説明を受ける

生産、冬期の体験では製材についてそれぞれ1名の生徒が体験しました。

菌床シイタケの生産では、培地づくりから菌床の除袋、浸水、シイタケの収穫、販売のための包装まで生産に関わる作業をひと通り体験します。菌床栽培の現状や林業とのつながりを理解してもらおう機会となりました。除袋作業では、袋に付着している茶色の水（分解

水）が酸性で、皮膚に付くと肌荒れを起こすことがあるため、生徒は指導を受けながら慎重に作業を進めていました。

製材工場では、丸太の皮むきから一連の製材工程を体験し、その後、当工場で製材した材を使用している施設の見学なども行いました。この生徒は、夏休みに別の指導林家のもとで枝打ち、巻枯らし間伐、伐倒作業などを体験してお

り、造林から木材生産や製材まで、林業の一連の行程を学ぶことができました。

林業体験学習参加者の就業状況

令和3～5年度の3年間で、延べ20名の指導林家のもとで、延べ36名の生徒が林業体験学習に参加しました。またこの3年間に卒業した林業体験学習参加生徒25名のうち9名が、県内外の森林組合や林業経営

体、製材工場、地方公共団体（林学職）への就職、林業大学校等への進学をしています（表）。

先述のとおり、林業・木材関連分野への就業を視野に入れている生徒が繰り返し体験学習に参加していることから、就業前に実際に現場を体験する機会を提供することで、林業・木材関連分野への就業の後押しとなっていることと思われる。

裾野を広げて後継者育成を

また、学生時代、全く違う分野で学び、林業・木材関連分野に就

表 令和3～5年度卒業生の進路状況
(体験学習参加生徒)

森林組合	3
林業経営体	1
木材加工業者	2
地方公共団体林学職	1
その他業種の会社	10
林業大学校等	2
その他進学	5
その他	1
合計	25

業している方も多いことから、これからも林業関係高校以外の高校生徒にも広く参加を呼びかけ、林業の魅力に気づき、将来林業を仕事として選択する生徒が1人でも多くなればと考えています。

本協議会では、高校生以外にも小・中学生を対象とした林業体験学習も実施しています。引き続き、将来の担い手となる子供たちに林業の魅力を伝える場を増やしていきたいと考えています。

*まとめ

愛知県指導連絡協議会事務局
愛知県農林基盤局林務部林務課

事

高校生等の林業就業体験等

例

森林組合や町役場と取り組む 林業現場を肌で感じる研修会 かみやま林業振興会「徳島県」



受け口づくりにもチャレンジ！
生徒が上手にできると、指導側にも笑みがこぼれる

神山町の農林業と
かみやま林業振興会

神山町は、徳島県のほぼ中央に
位置する人口約4700人、総土
地面積1万7330ha、森林率

約86%の町です。民有林総数は
1万4470ha、うち約71%が人
工林で、その9割をスギ・ヒノキ
が占めています。また、所有者規
模別で見ると、10ha未満の所有者
が約95%と、小規模・零細な所有
構造となっています。主要産業は
農林業で、日本一の生産量を誇る
「すだち」のほか、菌床栽培によ
る生シイタケ生産も盛んです。

床柱に加工して販売しています。
ミツマタ栽培については、平成
24年春より約3万2000本を植
栽して、原木を出荷しています。
会員の高齢化もあり、若手会員
の確保や技術の継承などが課題と
なっています。また、森林資源の
充実した神山町において、近年、
自伐林業を営まれる方が増えたり、
新たな林業事業者がきたりして
いますが、まだまだ林業従事者は
不足しており、地域林業の振興と
いった面からも、林業後継者の育
成が必要な状況となっています。

継続する 林業体験現地研修会

このような背景から、将来の林
業従事者の育成に向けた取組とし
て毎年、徳島中央森林組合（以下、
森林組合）や町役場の協力のもと、

地元の徳島県立城西高等学校神山校（以下、神山校）の生徒を対象とした林業体験現地研修会を開催するようになりました。

今年度の研修会は、11月28日（木）、環境デザインコース2年生13名を対象に実施しました。

座学と土場見学

当日、生徒は森林組合に集合し、当会会長より挨拶や研修の趣旨説明を聞きました。その後は、県林業普及指導員による県の林業施策や、高性能林業機械による素材生



研修前の説明を真剣に聞く生徒たち



徳島中央森林組合の土場を見学。原木市の説明を受ける



熱心にチェーンソー操作の説明を聞く生徒たち

産システムを学び、また、森林組合職員からは木材市場の概要説明を受けました。それぞれ専門分野の指導者らで本研修会を支えています。

次は森林組合の土場見学に移ります。土場においては、木材が搬入された際のはい立て作業や値決めの方法、丸太の樹種や良材の見分け方などの説明を受けました。実際に丸太を目の前に行っているこ

ともあり、生徒たちは興味深く話を聞いているようでした。

チェーンソーで丸太切り体験

その後、搬出間伐を行っている現場に移動し、3班に分かれ研修を開始。チェーンソー操作は当会の会員が指導を務めました。

体験してもらおうのは、丸太の輪切りです。今回参加した生徒は、チェーンソーを用いた伐木等

の講習を受講していることもあって、最初からスムーズに輪切りを行える生徒もいました。ただ、生徒の多くは、エンジンの始動の仕方からチェーンソーの持ち方、輪切りをする際の姿勢や立ち位置まで、会員から丁寧かつ熱心な指導を受けながらのチャレンジです。最初はとまどいながらも、複数回繰り返し練習することにより、上手にチェーンソーを扱えるようになってい

った生徒の満足げな様子が印象的でした。

「先達にもつと学びたい」と再度チェーンソー体験を申し出る生徒もおり、会員もその熱意に呼応し数人ではありましたが、当初予定していなかった伐倒の際の「受け口」づくりも指導することに。生徒の積極的な学びの姿勢に会員たちも充実した想いを抱いたようです。

フォワーダとグラップル体験

高性能林業機械の操作体験については、森林組合の作業班の方に指導していただきました。

グラップルの操作体験では丸太の円盤をつかみ、重ねていく作業に挑戦です。なかには、作業班の方が口頭でアドバイスするだけで、円盤を高く積み上げる生徒も見受けられ、うまく操作できる生徒や、そうでない生徒もおり、それぞれの個性が見られました。

フォワーダの操作体験は、据え付けのグラップルによる丸太の積み込み作業で、グラップルの操作方法や丸太をつかむ位置の指導を受けながら、慎重に作業を行って



フォワーダのグラップル体験。
指導を受けながら丸太を荷台に載せる



グラップル操作体験。
指導員が横に付かなくても、上手に積み上げる生徒もいた

いました。

研修会の最後には、現場状況の関係もあり生徒個々の体験は割愛しましたが、作業班の方が行うプロセッサによる造材作業を全員で見学し、研修を終了しました。

体験したからこそ… アンケート回答

研修会終了後、生徒にアンケートを実施しました。

▼「今回の研修を受講する前に「林業に関わる仕事をしたい」と思っていましたか」の問いには、

- ① 思っていた…1名
- ② ある程度思っていた…2名
- ③ 思っていない…10名
- ④ 合わせても3名しか「林業」を仕事先として考えていなかったようですが、研修終了後での同様の問いには、
- ① ある程度思った…6名
- ② 思わなかった…4名
- ③ 「林業」に前向きな回答をした生徒が倍増していました。

一方で、研修前に「林業に関わる仕事をしたい」と思っていた1名が研修後にはいなくなっており、また、3名が未回答と実際の林業



研修を終えて。生徒も関係者も充実の表情

現場を肌で感じるにより、考えが変わったり、簡単には答えられなかったのではないかと思うところでは、

▼「今回の研修は将来のために役に立ちましたか」には、

①大変役に立った：6名

②ある程度役に立った：7名

▼「今回の研修は理解できましたか」の問いには、

①たいへんよく理解できた：7名

②ある程度理解できた：6名

と生徒全員から前向きな回答を得ることができました。

生徒たちの感想としては、「とてもわかりやすく接してくれて、やりやすかった」、「教え方がとても良かった」、「もっと研修を試みたい」、「他にもいろんな機械を使って林業を知りたい」など、肯定的で前向きな意見が多く、会員にとっても励みになるものでした。

これから進学や就職を考えている高校生にとって、有意義な研修になったものと感じているところです。

若者の元気は林業の活力

徳島県では、林業後継者不足の解消と即戦力となる人材育成を目的に、平成28年度から「とくしま林業アカデミー」（以下、アカデミー）が開校されており、これまで神山校から11名の人材がアカデミーを経て林業界へ巣立っています。

アカデミーでは、例年神山校の生徒を対象としたオープンキャンパスが開催されており、アカデミー生が指導役として、チェーンソー操作やフォワーダの走行体験などを研修所内で実施しています。

一方、当会の研修会は林業現場で開催します。森林組合の方や林家個人とのかわりといった点も含め、実際の林業の場に触れる機会として、神山校生の森林・林業への理解をより深めることに役立っているものと考えています。当会の活動が神山校生のアカデミー進学への後押しの一助となり、ひいては林業後継者の育成・確保に貢献できているのであれば、たいへん喜ばしいことです。

今回の現場はやや標高が高く、厳しい寒さの中での研修となりましたが、昼食休憩中に生徒たちが山の斜面をかけずり回る姿を見て、その若者の元気と活力こそが、現在の山村・林業に必要なものだと痛感したところです。

神山町の森林サイクルの確立と地域の活性化に貢献するためにも、自分たちの持つ知識や経験、技術等を次世代の若者へつなげていくよう、今後も人材育成への取組を継続していきたいと考えています。

＊まとめ

かみやま林業振興会事務局

事

高校生等の林業就業体験等

例

やりがいや面白さを体験してほしい 地域の貴重な“人財”を林業の世界へ！

球磨地区普及・林研グループ連絡協議会「熊本県」



プロセッサ操作の研修風景。
熱心な指導に生徒も集中

人吉球磨地域と 当協議会の概要

人吉球磨地域は熊本県の南東部に位置し、東は宮崎県、南は鹿児島県に隣接しています。人吉市を

中心に1市4町5村からなり、周囲は九州中央山地に囲まれ、地域の中央を東西に貫流する日本三大急流の1つである球磨川や18年連続水質日本一を誇る川辺川など、自然豊かな地域となっています。

人吉球磨地域の森林資源としては、森林面積約12万haのうち民有林は約10万haと県全体の民有林面積の4分の1を占めており、人工林面積は県平均61%に対して67%、林業生産額も約29億円で県内有数の林業地域となっています。

球磨地区普及・林研グループ連



伐倒訓練機で受け口の作り方について講師の指導を聞く

絡協議会（以下、当協議会）は5つの林研グループで構成されています。各林研グループでは地域に根差した活動を継続している一方で、他の地域と同様に、少子高齢

化による担い手の不足も喫緊の課題となっております。

そのような中、当協議会では、林業後継者育成を目的として各林研グループや林業関係者の協力をいただきながら、地元高校に対する“人材”確保に向けた事業を展開しています。

地元高校を対象とした林業体験型の研修

今回の事業の対象である熊本県立南陵高等学校（以下、南陵高校）は、人吉球磨地域のほぼ中央に位置する球磨郡あさぎり町にある全日制の高校で、普通科をはじめ総合農業科や生活経営科、食料科学科といった学科があり、地域社会のニーズに応える学習活動が行われています。

とりわけ、総合農業科では、自然と調和した暮らしを学ぶことを理念に、体験活動を中心としたカリキュラムとなっております。2年次からはコース選択制（林業専攻は「環境コース」、3年次は林業専攻を含む5専攻から選択するシステムとなっております）。

当協議会では、コースを選択す

る2年生を対象に、「林業」を仕事とするやりがいや面白さを体験してもらいたいとの思いから、例年、間伐研修と高性能林業機械操作研修を実施しています。

安全第一！ 間伐研修（基礎編）

間伐研修は、2日間にわたって実施します。1日目に南陵高校の実習室で座学を行い、その後、同高校の敷地内でチェーンソーの扱い方を徹底的に練習します。

これは、2日目に予定している南陵高校演習林での間伐の実践に備えて、安全に伐倒を行うために実施するものです。

12月中旬、1日目の研修です。索道の運営やチェーンソー等の機材を販売しておられる第一索道商

事株式会社（平野代表からチェーンソー取り扱いの基礎や安全な操作方法等について講義していただいた後に、午前は1班、午後は3班に分かれて練習を開始しました。まずは、土台に設置した丸太を輪切りにします。まっすぐに切るの

は意外と難しく、生徒たちは納得のいくまで真剣に取り組んでいました。

そして、いよいよ伐倒訓練機による受け口、追い口の練習です。

生徒1人につき1回以上は実施してもらったこととしました。目標は、①水平切り、②斜め切り、③正確な受け口・追い口をマスターすることです。前述した丸太の輪切りと比べると格段に難しくなります。水平切りと斜め切りをうまく合わせることで、上手に受け口を作るコツですが、なかなか難しく生徒たちは何度も挑戦していましたが、研修を終える頃には丸太が受け口だらけになってしまい、少しかわいそう



何度も練習する生徒。
伐倒訓練機が受け口だらけになった！

に思いましたが、全員が怪我なく無事に終了することができました。2日目の間伐の実践では、足場も悪くより高度なチェーンソー操作が求められます。生徒たちには、安全作業を徹底してもらい、練習の成果を発揮してほしいと思います。

安全第一！ 間伐研修（実践編）と 高性能林業機械操作研修

間伐研修（基礎編）の2日後、南陵高校から北に車で30分ほどの場所に位置する演習林で、総合農業科の2、3年生を対象に間伐研修（実践編）と高性能林業機械操作研修を実施しました。

当初、林業専攻の生徒のみを対象としていましたが、同科農業土木専攻の生徒も参加したい！とのことで、飛び入りで参加してもらい、2年生17名、3年生15名の総勢32名と大人数での開催となりました。

午前と午後のそれぞれで間伐（2班）と、プロセッサ、スイングヤーダ、フォワーダ（各1班）の4班体制として1班4〜5名で

実施。生徒の人数が多く時間的な制約もあるため、安全を確保しつつスムーズなローテーションがカギとなります。

間伐は林研グループ会員2名と熊本県林業研究・研修センター職員2名が2班に分かれて実施。高性能林業機械操作は地元で素材生産を行っておられる九州横井林業株式会社の作業員3名が講師です。皆さん林業に長年携わっておられるベテランばかりです。

さて、研修に入り、間伐研修（実践編）では1人1本程度を伐倒します。現場は道路下で、直径20cm、樹高12mのヒノキ、間隔はやや狭く枝も張っているため切捨間伐するには少し難しい林分です。急峻な地形のため立木まで行くのも一

苦労でしたが、ようやく到着すると講師からの説明を受けていよいよ間伐を開始。生徒たちは悪戦苦闘しながらも、練習どおりに受け口、追い口を作り、想定していた方向へ上手に倒していました。中には、すでに現役作業員のように伐倒する生徒もあり、話を聞く「お父さんが林業に携わっていて普段から家でも手伝っている。将来は林業の仕事で父を超えたい！」とのこと。即戦力となる頼もしい担い手を発見した瞬間でした。

次に、高性能林業機械操作研修です。操作講師の皆さんは昨年も担当していただいております。教え方も慣れていらつしやいます。まずは、講師から基本的な説明を受けたあとに早速操作を開始します。

ムーズでどんどん上達していきました。生徒からは「難しいけど、ゲームのようで面白い！」との声がありました。

スイングヤーダはワイヤーロープを玉掛けする生徒と機械を操作する生徒に分かれて行います。ワイヤーロープを設置するために斜面を登ったり、下りたりする生徒は大変そうでしたが、苦勞して重い木材を土場に引き上げた時は双方とも達成感に満ちた表情をしていました。

最初は大きく揺れるヘッドに戸惑いながらも、最後は丸太をつかみ、玉切りする工程もス

次は丸太をグラップルでつかんで荷上げ、フォワードで走行、グラップルで荷下ろしまでを操作します。



父の手伝いをしているという生徒の伐倒はすでにベテラン級！



ワイヤーロープの玉掛けを担当する生徒は大変だったスイングヤーダ体験



プロセッサ操作研修。ゲームのように？どんどん操作が上達した生徒もいた



フォワーダ操作は、荷上げ、走行、荷下ろしに挑戦

「研修前に、林業に関する仕事をしたいと思っていましたか？」という質問には、「思った、ある程度思った」が17名と、これまでに林業への興味がなかった生徒に対しても一定の成果があったと思いま

す。今後は、1年生の早い段階から林業に興味を持ってもらおうような内容も検討していきたいと考えています。冒頭でも触れたように、担い手不足は深刻な課題ですが、一方で当地域には各林研グループをはじめ、多くの林業事業体や関係団体があり、心強いバックアップがあります。当協議会としては、林業後継者の育成に向けて魅力ある研

修を実施していくとともに、地域の貴重な“人材”を林業の世界へつなげていけるように、各林研グループや林業関係者とともに積極的に活動を展開していきます。

*まとめ

球磨地区普及・林研グループ

連絡協議会

事務局 山部貴史

作業道が狭く難しそうでしたが、プロセッサと同様にすぐにコツをつかんだようで楽しみながら操作していました。

最後に生徒代表からの感想と講師からの講評をいただき、集合写真撮影して無事に終えることができました。今回の研修の実施に際し、事故もなく生徒一人ひとりに丁寧に指導いただいた指導者の方々には、この場を借りて御礼申し上げます。

林業関係者とタッグを組んでこれからも

今回の研修を終えて、生徒の一人当たりの研修時間が短くなってしまう物足りない思いをさせてしまったものの、生徒からは「楽しかった」や「またやりたい」といった肯定的な意見が寄せられました。

また、研修後のアンケートで、「研修前に、林業に関する仕事をしたいと思っていましたか？」という質問には、32名中21名が「思っていないかった」と

答え、その21名のうち「今回の研修後に、将来林業に関する仕事をしたいと思いましたか？」という質問には、32名中21名が「思っていないかった」と



研修終了！
プロセッサの前で集合写真

事

高校生等の林業就業体験等+出前型授業

例



ドローン操縦方法を教わる1年生

地域林業を守る 高校生の後継者育成 1～3年生のICT、チェーンソーアート、 ブナ林、高性能林業機械研修 北信州の森林と家をつなぐ会「長野県」

北信州の 家・山・まちづくり

当会は長野県北部の北信地域（中野市、飯山市、山ノ内町、木島平村、野沢温泉村、栄村）を活動地域として、北信州の自然素材をふんだんに活用した健康的で丈夫な家づくりと、森林整備により健全で丈夫な山づくりを促進し、自然豊かな北信州のまちづくりを創造することを目的として発足しました。北信地域の林業団体を取りまとめる高水林業協議会の林業グループ部会に所属しています。発足当時はメンバーも40代と若く森林整備等も積極的に行っていました。しかし、60代となった現在では皆が重責を担う立場に就い

ており、なかなか直接作業を行うことはできなくなりました。そのため、会の主な活動は小中高校生を対象にしたイベント参加や体験による研修等が主になっています。メンバーそれぞれが多忙の中ではありますが、会の運営は地道に進めています。

19年続く 農林高校への指導

全林研による林業後継者養成事業での長野県下高井農林高等学校（以下、下高井農林高校）の指導も、平成18年から続けており、今年で19年となります。

当校について少し触れましょう。2年前の令和4年度の本活動事例集では、下高井農林高校のグリー



操縦体験。慣れてくると、高く飛ばすことができる生徒も

1年生(60名程度)には林業系の関心を深めるためにICT研修として、ドローン計測についての講義と操縦体験を行いました。ICT研修は北信州森林組合に指導を委託しています。

生徒は、初めに資料によりドローンの活用事例の説明を受け、森林施業の成果確認、DEMデー

1年生 ICT研修

タや資源量解析データの活用、枯損木調査、オルソ画像の作成方法などを学びます。また、ドローンに関する法令と飛行ルールを学びました。

その後、学校のグラウンドで3クラスに分かれ、ドローン3機を使って操縦体験を行います。最初はもじもじしていますが、慣れてくるとドローンを見えなくなるほど高く飛ばす生徒もいました。こうしたことを通じて、森林・林業に関心を持ってもらい、コース選択で環境創造コースに進んでくれればと思います。

今年度は、当会のICT研修に

「全林研による出前型授業」 現場の林業・ スマート林業を学ぶ

先立ち「全林研による出前型授業」としてスマート林業の講演が行われました。講師として栃木県の有限会社高見林業専務取締役の齋藤^{くにお}州生さんが派遣され、林業の基礎知識からスマート林業、自社でのドローンの活用事例や下刈り省力化のことが紹介されました。

現場人の実践に基づいた講座は、生徒たちにとって、たいへん新鮮

ンデザイン科に森林活用コースと地域資源活用コースが設けられたことを紹介しました。その後、大幅な学科再編が行われ、現在、新学科として「地域創造農学科」1つとなつていきます。

1年生はコース共通で、2年生と3年生では、「産業創造コース(農業・園芸系、畜産・動物系、食品・調理系、家政・栄養系)」と、「環境創造コース(林業・森林系、土木系、造園系、観光系)」に分かれています。

新学科では、1年生は地域学習

として風土・文化・産業について学ぶ「北信州学」や、地域連携によるインターンシップがあり、2、3年生では担い手育成に向けた現場実習へと導くデュアルシステムの確立を目指しています。

当会で行う研修は、「北信州学」の一環であり、またインターンシップに関連するものと位置づけられています。

このために、「下高井農林高等学校地域連携推進協議会」が設けられ、私も委員に委嘱されています。



全林研による出前型授業。
林業の基礎やスマート林業など、講座内容は多岐にわたった

で、皆が真剣に聞き入
っておりまして。

2年生 地域林業の基・ ブナ林研修

環境創造コースの2
年生には、地域の山林
や林業を知ってもら
うためにブナ林の研修を
行っています。なべく
ら高原森の家のインス
トクターの案内で鍋
倉山周辺を観察しまし
た。

昭和20年代後半から40年代後半
にかけて、当地域はブナ等の広葉
樹の一大産地となっていました。



講演する高見林業専務取締役の齋藤州生さん



推定樹齢400年以上と言われたブナ「森太郎」の
倒伏跡を観察した

広葉樹のほか、ツガやモミなどの
針葉樹も生産されていました。長
野電鉄の信州中野駅を取り囲むよ
うに飯山管林署の貯木場やいくつ
もの製材所がありました。

飯山線の飯山駅周辺も同様
でした。また、中野市には、
生産されたブナを利用して
ベニヤ工場やフローリング
工場がありました。

現在でも北信地域には製
材所が多くあります。そし
て、総人口8万人程度の地
域に、人工乾燥機を持つ製
材所が2カ所もあるのは、

過去に製材が盛んだっ
たことの名残でもあり
ます。

そうした地域林業の
基となったブナ林を学
習してもらうために、
このブナ林研修を行っ
ています。

当日は、ブナの巨人
と言われた「森太郎」
の倒伏地を訪れるなど
しました。

3年生 チェーンソーと 林業機械体験研修

①チェーンソーア ート づくり

3年生には職業選択
のために、チェーンソ
ーの取り扱いに少しで
も慣れてもらおうと、
プロを招いてチェーン
ソーアートづくりを体
験してもらいました。
21名の生徒がいました
が、割り振られた予算
もあり、10名に絞って
行われ、午前、午後の



それぞれのクマを前に達成感の笑顔



ハーベスタによる枝払い造材作業



スイングヤーダによる集材作業

1日かけての研修になりました。最初は怖がって腰が引けている生徒が多かったのですが、午後になるとチェーンソーの扱いにも慣れてきて、スムーズな動きで制作をすることができた生徒が多かったです。

今年クマを作りました。出来上がりはそれぞれの個性が表れ、どの作品も誰が見てもクマとわかっていました。生徒たちはつくり

上げた達成感を味わい、チェーンソー操作に親近感を覚えたことと思います。

②フォワーダ、ハーベスタ、スイングヤーダ操縦

3年生のもう1つの研修である高性能林業機械操縦体験には、21名全員が参加しました。

最初に、ハーベスタによる伐倒作業を見学しましたが、初めて見たこともあり生徒全員が驚いてい

ました。そして、7名ずつの3班に分かれて、フォワーダのグラップルクレーンによる積み込みと荷下ろし作業、ハーベスタを使っての枝払い造材作業、スイングヤーダによる集材作業を体験しました。土木系を目指す生徒たちには、どの機械の操縦も手馴れているように思えました。

21名と多かつたため、全員がすべてを操縦するのに時間がかかり、予定時間をオーバーしていました

が、生徒たちは満足しているようでした。

後継者育成
継続することの意義

下高井農林高校では、この研修を通じて地元森林組合のほか、林業事業体への就職や長野県林業大
学校へ進学するなど、これまで後継者育成としての実績を残してきました。

今年、生徒1名が地元森林組合を希望し就職が決まったと聞いています。また、2年生では、女子生徒1名が春秋2回計5日間、北信州森林組合にインターシップを受講するなど、本事業による成果は大きなものがあると感じています。

地域林業の後継者育成にとつて、本事業を継続することは大きな意味があり、今後も継続できることを願っています。

*まとめ
事務局長 田中 忠

事

高校生等の林業就業体験等+出前型授業

例

未来の林業を支える若い力！ 地域林業を盛り上げる体験研修

かどがわちゅう
門川町林業研究グループ連絡協議会「宮崎県」



ドローン活用事例の説明に、
集中してパソコン画面を見る生徒たち

に、会社員や建設業、大工などの会員17名で構成され、平均年齢は30歳と比較的若いグループです。

門川林研の活動拠点である門川町は宮崎県の北部に位置し、日向灘ひゅうがなだに面しており、マリンスポーツや釣り、キャンプなどのアウトドアが楽しめる風光明媚な町です。

また、三方を山に囲まれ、海と山に囲まれた環境でのびのびと暮らせる一方、隣接する延岡市と日向市にも近いため、マイカーがあれば暮らしに困ることはありません。

森林面積は9936ha、森林率は83%。このうち民有林面積は9920haで、人工林率は46%と豊かな森林資源に恵まれ、近隣の



林道沿いの草刈り作業の様子

美郷町、諸塚村、椎葉村を含め、林業が盛んな耳川流域に含まれています。この流域は、全国トップクラスの規模を誇る森林組合があり、多くの林業事業者、原木市場製材工場や木質バイオマス発電所があるほか、将来の林業の担い手を養成するみやざき林業大学校も

林業中心地・門川町と
門川町林業研究グループ

門川町林業研究グループ連絡協議会（以下、門川林研）は、平成7年に設立し、林業従事者を中心

あり、宮崎県の中核的な林業地域です。

門川林研では、設立以来、林業先進地への視察研修会や勉強会を実施するほか、林道沿いの草刈りや高校生を対象とした林業体験研修、町産業祭などのイベントにおいて小学生以下を対象とした木工教室を行うなど、様々な林研活動を行っています。

先輩から後輩へ 林業と高校生をつなげて

門川林研の活動において、担

手育成として、未来の林業を支える若い力の養成の柱となるのが、

宮崎県立門川高等学校（以下、門川高校）での林業就業体験（以下、林業体験研修）です。平成18年度から、チェーンソーや高性能林業機械を用いた林業体験研修を行っています。

門川高校は、宮崎県内では唯一の林業を学べる高校です。総合学科の栽培ビジネス系列で「森林科学」の必須科目があり、その後、林業を専攻した2年生、3年生に対して、「林産物利用」と「総合

学習」の授業が行われています。



まずは、会員や生徒同士が協力して防護服を着用

門川高校で活動するきっかけは、会員の多くが門川高校の卒業生で、当時の門川林研会長が門川高校のPTA会長を務めていたことから、「後輩たち（高校生）に林業の楽しさを感じてもらいたい！」「林業への興味を持ってもらいたい！」「林業と門川

高校の架け橋になりたい！」との熱い想いを当時の校長先生が受け止め、門川高校での林業体験研修が実現しました。以降、継続して活動しています。

ドキドキの チェーンソー・グラップル・ プロセッサ体験

令和6年度は、12月25日（火）に門川高校の実習広場で2年生を対象に、チェーンソーと林業機械操作研修を実施しました。

多数のチェーンソーやグラップル1台とプロセッサ1台を据えて、事前準備として会員の所有山林から切り出されたスギ4m材を数本運び入れました。また、生徒たちに安全で楽しい研修にしようということが何より重要であるため、入念なチェーンソーの目立てを会員全員で行いました。

いよいよ体験研修の時間です！23名の生徒が広場に集合し、会員の自己紹介の後、オリエンテーションとして、チェーンソーやグ



玉切りの研修。マンツーマンで指導を受ける



プロセッサ体験では四苦八苦！

その後、防護服の機能をしました。説明をしました。万一、ソーチェー

ンが体に触れても、説明すると、驚いた表情を見せる生徒や「本当にそうなのか？」と疑問に感じている生徒など反応は様々でした。

とするとヘッドがぶらんと大きく揺れ、苦戦している様子でした。つかんで、切つて、積むという一見簡単な作業のように思えますが、いざ体験してみると、非常に操作が難しく生徒たちは四苦八苦している様子でした。しかし一連の体験を終え、「難しかったけど楽しかった」と、生徒たちは操作できたことへの達成感で笑顔を見せていました。



グラップル体験。スムーズに操作できる生徒が多かった

ラップル、プロセッサの機械の説明を行いました。その後、チェーンソー班、グラップル・プロセッサ班に分かれて操作研修です。最初はエンジンをかけて玉切りました。

まず、防護服の着用です。防護服は厚みがあり重たいため、着用にかかった時間は、着用に時間のかかる生徒が多数見受けられました。会員や生徒同士が協力し合い、防護服のベルトを締めれば準備は完了です。

「全林研による出前型授業」ドローンを学ぶ
今回の研修では、今年度からスタートした「全林研による出前型授業」も併せて開催されました。特別講師として全国林業研究グループ連絡協議会副会長の黒田仁志^{まさし}さん、美郷町林業研究グループ会長の中田昂希^{こうき}さんによる講座です。題目は「林業におけるドローンの活用事例」。ドローンを活用し地形や境界を簡単に把握することで、森林調査の効率化や森林資源情報の精度向上につながっていることなどを説明していただきました。



黒田副会長の話を聴く生徒たち



生徒から研修の感想を聞く

長年続けてきたこの活動は、来年度で

林業を盛り上げる 若い力を応援

ます(表)。

学校に6名進んでい

路先として令和元年

度に開校した林業大

名、森林組合4

名、木材産業会社10

名、苗木業者1名で

す。また、新しい進

路先として令和元年

度に開校した林業大

学校に6名進んでい

ます(表)。

*まとめ

門川町林業研究グループ

連絡協議会 事務局

20周年目を迎えます。当該活動により、生徒が林業に興味を持つきっかけづくりに役立っていると自負しており、門川高校からも高い評価をいただいております。

今後も林業体験学習を通して林業に興味を持ってもらい、将来一緒に門川町の林業を盛り上げてくれる若い力を育てていきたいです。

生徒への聞き取りとアンケート調査

ノートパソコンの前にぎゅっと集まり、生徒たちは中田さんの説明を熱心に聞いていました。

林業体験研修後、生徒に感想を聞いてみました。

チェーンソーについては、「防護服が重くて大変だったけど切るのが楽しかった」「切っている時

に木の良い香りがした」「某漫画のキャラクターのようで楽しかった」などユニークな感想もありました。

グラップルとプロセッサの操作については、前述のように、「グラップルの操作はスムーズにできた」に対し、「プロセッサはレバーやボタンが多く、複雑で難しかった」という声が多かったです。そのほか、「研修は緊張したけど楽しかった」などの声も聞きました。

「将来どのような仕事を聞きました。」

に就きたいと思えますか」の問いに、「林業会社の職員や木材加工・流通会社等の職員」という生徒が10名弱(複数回答可)いました。

また、「今回の研修が将来のために役立ちましたか」の問いには、「大変役立った、ある程度役立った」が100%でした。

会員一同、熱心に取り組んできた価値を実感しています。

門川高校によると、過去10年間の生徒のこれまでの進路は、林業会社2

表 門川高校の林業関係への卒業生進路先 (過去10年間)

卒業年度	林業会社	森林組合	木材産業会社		林業大学校	苗木業者	生徒数(人)
			製材	木材加工			
H26			2				2
H27			1			1	2
H28		1	2				3
H29			1				1
H30			1	1			2
R01					2		2
R02							0
R03		1	2		2		5
R04		1			1		2
R05	2	1			1		4
計	2	4	9	1	6	1	23

